



# ふうせんばくだんかんけいしりょう 風船爆弾関係資料

(一宮町教育委員会所蔵)

ふうせんばくだん きゅうにほんぐん ほんど こうげき かいはつ わし  
風船爆弾は、旧日本軍がアメリカ本土への攻撃のために開発したもので、和紙をこ  
んにやくのり は つく ちよっけい ききゅう ばくだん しょういだん つり さげ と  
んにやく糊で張りあわせて作った直径10mの気球に、爆弾や焼夷弾を吊り下げて飛  
ばした兵器です。この計画は「ふ」号作戦と呼ばれ、一宮、茨城県の大津(北茨城市)、  
ふくしまけん なこそ し けい かしょ う あ きち しょうわ ねん がつ  
福島県の勿来(いわき市)の計3ヶ所の打ち上げ基地より、昭和19年(1944)の11月か  
らよねん ごとく ぐうけい こ う あ  
ら翌年にかけて、合計で約9,000個が打ち上げられました。

いちのみや う あ きち む かずさいちのみやえき ひきこみせん せんろ げんざい いちのみや  
一宮では、打ち上げ基地に向かって上総一ノ宮駅から引込線(線路、現在の一宮  
ていしゃせん し げんざい せきひ かんばん た じっさい う  
停車線に沿う)が敷かれました。現在、石碑と看板が立てられていますが、実際の打  
ち上げ基地は看板が立てられている場所の道を挟んだ海側の一帯にあったといわれ  
ています(看板は一宮町一宮6-35付近)。





ふうせんばくだん う あ き ち どだいはへん  
●風船爆弾打ち上げ基地土台破片

令和元年(2019)12月 寄贈

いちのみやかいがん ふうせんばくだん う あ き ち  
一宮海岸の風船爆弾の打ち上げ基地  
は、直径約10m超の円形のコンクリート  
どだい すうかしよ かしよ せっち  
土台が数ヶ所(7ヶ所といわれている)設置  
されました。戦後、基地は破壊されてしま  
いしましたが、コンクリートは貴重であった  
ため、破片を地域住民がそれぞれ持ち帰  
りました。この破片はその一部で、庭石と  
して使われていました。



●風船爆弾球皮の破片

平成21年(2009)2月 寄贈

ふうせんばくだん ききゅうぶぶん わし なんまい かさ  
風船爆弾の気球部分は、和紙を何枚も重  
ね、こんにやく糊で張りあわせて作られま  
した。この破片は紫がかっていますが、  
せんじちゆう しょくりょうなん なか さぎょう ひと  
戦時中の食糧難の中、作業する人がこん  
にやく糊を食べてしまわないように、色を  
つけた(食欲がわからない色にした)といわ  
れています。

